

指導主事向け研修転移を促す研修デザインガイド

— 研修成果可視化システム利用の際に活用できます —

研修評価のための7つの視点（受講者アンケート）

動機	あなたの受講した動機と研修の内容は合っていますか
仕事との関連度	この研修は、自分の仕事に関連していると思う
目標と内容の整合性	この研修の「目標」と「内容」は合っている
研修方法	この研修の方法は、研修の内容を理解するために効果的だった
満足度	この研修に満足している
達成度	この研修の目標は達成できましたか
自己効力感	この研修で学んだ内容を、実際に校内での役割や業務に生かせそうですか

研修評価を考える上で、重要なことは受講者の「学習効果」です。研修での学びが現場に生かされ、最終的に子どもの学びにつながっているかどうかということが、研修の成果として問われることになります。それぞれの項目は互いに関連していますので、「学習効果」の結果の原因について、それぞれの項目をもとに探っていく必要があります。

横浜市教育委員会事務局教職員人事部教職員育成課、横浜国立大学教職大学院（2023） 研修改善のための研修評価ガイド より



受講者の7つの視点と関連が見られた指導主事の研修デザインに関する行動

上記受講者アンケートの視点と、指導主事の研修デザインに関する行動の関係を明らかにするために分析を行いました。以下は指導主事の研修デザインに関連が見られた項目で、受講者の学習効果等を考える上で重要なデザインに関する行動であるといえます。これらの項目は研修成果可視化システムに搭載されており、教職員や研修実施者の可視化データのもとになっています。

研修の企画

- ・内容理解：①最新の国や市の状況・動向、学校現場の実践や課題の把握
- ・事前調査：①過去の研修担当者にヒアリング ②過去の受講者の振り返りシート
- ・目標立案：①研修の目標の明確化 ②研修を通して学んだことを学校で生かしている姿を具体的にイメージする

組み立てる

- ・構成のデザイン：①受講者にとっての学習効果を重視 ②事前課題の必要性の検討
③講義と活動のバランスの十分な検討 ④ひとつひとつの活動に十分な時間の確保
⑤オープニング・メインアクティビティ・クロージングの時間の検討
⑥研修内容に関する今日的な国や市の状況、動向についてとりあげる
- ・受講者との関わり(実施)：①実際の受講者の様子を見て関わり方を決める
②実際の受講者の様子を見て時間を調整
- ・オープニング：①受講者が研修の必要性を認識できるように工夫
- ・メインアクティビティ：①受講者へ音声や映像がクリアに届くようにする ②グループワークの確保
③対話の確保 ④適切な難易度設定 ⑤校種や地域などをふまえたグループ分け
⑥話しやすい環境（グループ内で声が届く、他のグループと声が干渉しない等）の設定
⑦対話や活動を支えるスタッフの確保（質問への回答やファシリテート等を行う）
- ・クロージング：①研修の目標を再確認し、意味づけ・価値づけをする ②振り返る時間の設定
③受講者同士で振り返りを共有 ④現場でどのように活かすのか見通しを考える時間の設定
⑤前向きに終わられるようにエンパワーメント

届ける

- ・研修の広報・周知：①多くの受講者に研修の目標・内容を伝えるような工夫の実施

本資料は文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、横浜国立大学が実施した令和5年度教員研修の高度化に資するモデル開発事業によるものです。

横浜国立大学教育学研究科 連携：横浜市教育委員会事務局教職員人事部教職員育成課

「研修転移」を促す研修成果可視化システム
研修での学びと現場をつなぐ

YNU 横浜国立大学

Society 5.0

時代の到来など、予測困難な時代において、「令和の日本型学校教育」を担う高度な資質・能力を有する教員の育成が急務となっています。多様化するニーズ、変化の激しい教育環境に対応するためには、より高度な教職員の資質・能力の向上、そのための研修の高度化が必須となります。

研修

は、教職員の資質・能力の向上に寄与することはもちろんのこと、向上した教職員の資質・能力は学校における授業や校務等の実践につながって初めて意味をもちます。研修での学びがその後の学校における実践に確かに活用され、子どもの学びにつながっていることが重要であり、それは、研修転移と呼ばれています。中教審審申でも指摘されている通り、教職員自身の学びを転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を実現することが求められています（研修観の転換）。

横浜国立大学

ではそのような状況を鑑み、文部科学省「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」において、「カークパトリックの研修評価モデルに基づく研修成果可視化システム」を開発しました。カークパトリックの研修評価モデルとは、研修の成果について4段階で考えるもので、研修を受けた反応に関する段階から、実際に現場が変容したかどうかという研修転移に関する段階までの4段階で構成されています。この研修評価モデルをもとにシステムの開発を行いました。研修転移を促すためには、研修に参加した教員と研修をデザイン・実施した指導主事双方へ支援が必要です。研修に参加した教員は、研修における自身の学びを把握し、学んだことを生かして何をすべきなのか考えられるようになることが重要です。そして、研修をデザイン・実施した指導主事は、実施した研修について、研修に参加した教員が実際に行動に移せるよう支援を行えるようになること、そして、長期的な視点として、自身が実施した研修のデザインが研修転移を促すものであったのかどうか、検討し、改善できるようになることが重要です。開発したシステムを用いることで、教員と指導主事の双方への支援をします。

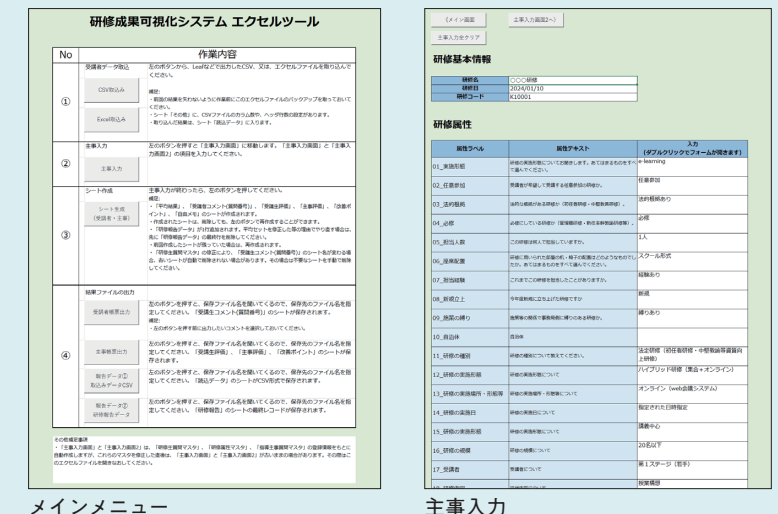
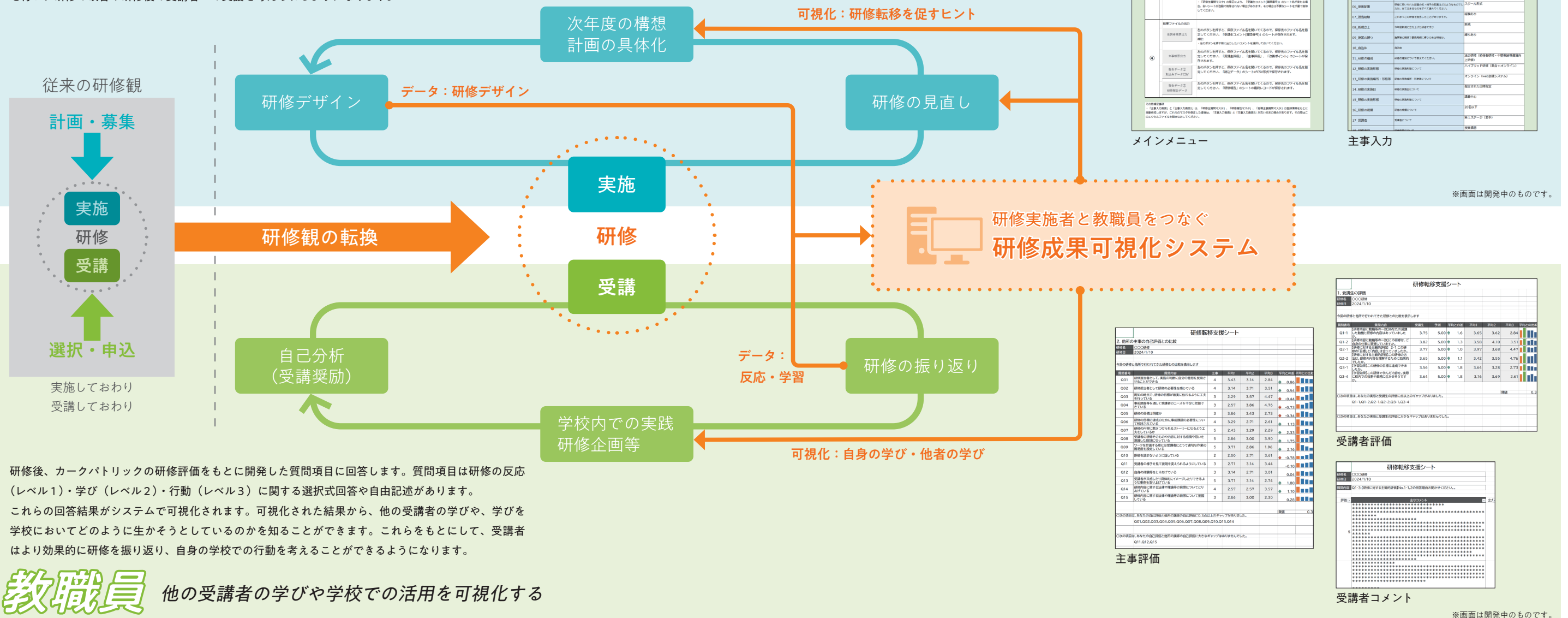
カークパトリックの研修評価モデルに基づく研修成果可視化システム

研修実施者 研修デザインと受講者の学びを可視化する

研修後、以下の質問に答えます。これらの回答結果が、受講者の回答とともに可視化されます。

- ①研修のデザイン ②研修の実施方法 ③受講者アンケートの結果予想

過去の研修や他の研修との比較などの様々な視点から、研修を分析することができます。その際には、結果に応じて研修転移を促す解説も表示されます。これらをもとに、指導主事は研修について振り返りを行い、研修の改善や研修後の受講者への支援を考えられるようになります。



※画面は開発中のものです。

研修名	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
001	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
002	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
003	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
004	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
005	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
006	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
007	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
008	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
009	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
010	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
011	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
012	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
013	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
014	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果
015	研修内容	研修実施者	研修参加者	研修実施日時	研修実施場所	研修実施形態	研修実施回数	研修実施時間	研修実施費用	研修実施効果

※画面は開発中のものです。

教職員

他の受講者の学びや学校での活用を可視化する

研修後、カークパトリックの研修評価をもとに開発した質問項目に回答します。質問項目は研修の反応(レベル1)・学び(レベル2)・行動(レベル3)に関する選択式回答や自由記述があります。これらの回答結果がシステムで可視化されます。可視化された結果から、他の受講者の学びや、学びを学校においてどのように生かそうとしているのかを知ることができます。これらをもとにして、受講者はより効果的に研修を振り返り、自身の学校での行動を考えることができるようになります。